パラグラフチェックポイント

- ☐ 段落の最初は、一字下げているか
- ☐ 1つの段落が長すぎないか
- ☐ 1つの段落に言いたいことが2つ以上入っていないか
- ☐ 段落の一文目にその段落で最も伝えたいことが書かれているか
- ☐ トピック文とサポート文、まとめ文の内容にズレがないか

パラグラフライティングは、伝わる文章を書くための基本技術。日本語の段落とは異なるので、意識的に練習しよう！
志望理由書等、就活の場面でも活かせるよ！

こんなときコラトリエで相談してみよう

●文章をどのように組み立てればよいかわからない

課題の内容を確認し、
一緒にアウトラインを組み立てていきます

●何を論じればよいのかわからない

書きたいことを整理し、
一緒に「言いたいこと」を明確にしていきます

コラトリエで相談するには？

①コラトリエ（土樋キャンパス、ホーイ記念館）2F インフォメーションカウンターで受付する

➡当日対応も可能ですが、予約が重なることもあるので、予約をお勧めします

②問い合わせ先のメールアドレスに下記の内容を送る（氏名、学生番号、相談希望日時、相談したいこと）

➡相談日時のお知らせメールが届きます（平日、一両日中）

問い合わせ先
東北学院大学ラーニング・コモンズ「コラトリエ」
E-mail：colatelier-support@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
TEL：022-264-6570
HP：http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/colatelier/
Twitter：@tgu_colatelier
Facebook：https://www.facebook.com/tgu.colatelier/

WEBはこちらから

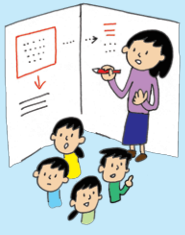
発行：2018年2月

ミニガイド

レポートの書き方のコツ

文章構成編

提出する前に
確認しよう！



ラーニング・コモンズ「コラトリエ」

構成チェックポイント

- ☐ 序論・本論・結論の3部構成になっているか
- ☐ 問題提起が明確であるか
- ☐ 問題提起に対する答えが結論（または序論と結論）に書かれているか
- ☐ 結論で新たな事実を述べていないか
- ☐ （長いレポートの場合）小見出しがついているか

レポートは骨組みが大事！
先にレポート全体の構成を決めると、書くべきことが見えてくるよ！

トピック文（要点）

段落で最も伝えたいことや要点を一文で表します。
詳細に書きすぎず端的に表すことがポイント！
段落の一文目は一字下げることも忘れずに！

サポート文（説明・根拠・理由・例など）

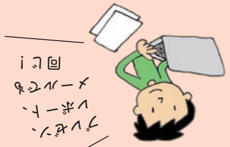
トピック文をサポートする文です。トピックに関する詳しい説明や具体的な根拠や例等を書いていきます。

まとめ文（まとめ）

段落のまとめを一文で表します。省略されることもあります。
トピック文と内容がずれていないか要確認！

＼Point！／

頭に浮かんだことをそのまま書くのではなく「伝えたいこと」を整理して文を組み立てよう！



プレゼン、レポート、メールでも同じ！

パラグラフライティング

　パラグラフライティングとは、欧米で普及している論理的な文章の書き方のことである。日本語の「段落」の書き方とは異なり、書く要素や順序が決められている。パラグラフライティングでは、その段落で最も伝えたいことや要点を、はじめの一文に書くため、読み手はすばやく内容を理解することができる。そのため、レポートや論文だけでなく、企画書や報告書等様々な場面でパラグラフライティングが用いられている。

パラグラフライティングのルール

① 1パラグラフ・1トピック

1つの段落に話題は1つだけです。話題が変わる時は、段落を変えましょう。段落が長すぎるときは要注意！

② 最も伝えたいことは段落の一文目に

各段落の一文目に、その段落で最も伝えたいことや要点を端的に表しましょう。

レポートの構成

1. はじめに ★

　近年、学校教員の長時間労働が大きな問題となっている。～(略)～。なぜ日本の学校教員は、このような長時間労働を強いられているのだろうか。本レポートでは、欧米諸国と日本の学校教員の労働環境を比較した上で、法制度の視点から長時間労働の要因について考察する。

2. 日本における学校教員の長時間労働の現状 ●

　日本の学校教員の労働時間は、欧米諸国と比較しても非常に長い。経済協力開発機構（OECD）が2014年に公表した「国際教員指導環境調査」によれば、～(略)～。つまり、日本の学校教員は、世界で最も多忙であるといえる。

5. おわりに ◆

　本レポートでは、学校教員の長時間労働の実態について明らかにし、法制度の観点からその要因を考察した。その結果△△と××の2点が要因として挙げられた。～(略)～。本レポートでは、××については触れることができなかった。この点については、今後の課題としたい。

★ 序論（10～15%）

- **テーマ背景**
  例）テーマの概要や現状、先行研究の紹介等
- **問題提起**
  例）なぜ〇〇か、どうすれば〇〇か、
  〇〇の違いは何か、本当に〇〇なのか、
  〇〇すべきか、〇〇は必要か
- **本論の予告**
  本論でどのようなアプローチで何をするか予告する
  例）本レポートでは、□□の視点から〇〇について△△する。

＼Point！／
曖昧な言葉を使わず明確な言葉で表そう！

● 本論（70～80%）

基本的な例

- **①説明型、論述型**　要点をいくつかに整理してまとめる
- **②実証型**　調査方法、分析結果、考察を書く
- **③論証型**　客観的な根拠に基づいて主張を導く

＼Point！／
①書きたいことやキーワードを並べ、全体の構成（アウトライン）を考えてから本文を書き始めよう。
②本論部分は、パラグラフライティングを意識して書こう。
だらだらと書くのではなく、要点を整理して書くことがポイント！
③長いレポートの場合は、小見出しをつけると更に読みやすくなるよ！

◆ 結論（10～15%）

- **まとめ**　本論部分で述べたことをまとめて結論を述べる
  本論で触れていない新たなことは述べない
- **今後の課題**

問題提起とまとめは対応させよう